

NUAL (ニューアル) は Nagoya University Alumni Association の略称です。



Contents

特集 1 : 韓国支部設立 1
NUAL Korean Branch founded

特集 2 : 名大今昔【第 1 回 嚶鳴寮】 4
Nagoya University: Past and Present - Ohmeiryō

同窓会ニュース 8
NUAL News

大学ニュース 14
Nagoya University News

事務局からのお知らせ 16
From the NUAL Office

在りし日の桜山の嚶鳴寮 (右上) と山手通りの嚶鳴寮 (右下)、現在の国際嚶鳴館 (左)

特集 1 韓国支部設立 NUAL Korean Branch founded

韓国支部設立総会が開催される

名古屋大学全学同窓会の海外支部としては初めてとなる韓国支部の設立総会が、5月5日(木)午後、ソウル市内のアミガホテルにおいて、平野総長及び伊藤全学同窓会代表幹事出席の下開催され、韓国内の本学の留学生等で作られていた6つの同窓会支所の会長や役員を中心に約30名の出席がありました。総会は、趙駿衡先生(江原大 教授)の司会のもと、最初に平野総長から、韓国支部設立に感謝するとともに、卒業生(留学生)



支部旗を中心に尹支部長(左)と平野総長(右)



参加者全員で記念撮影



韓国支部創立看板を中に平野総長(左)と金判采全南・光州地域会長(右)

の精神的な支えになっていただけることを大いに期待していること、昨年4月に「国立大学法人名古屋大学」として新たに出発したが、本学の優れた研究の創造と将来を担う豊かな人間性を持つ勇気ある知識人の育成を通じて社会に貢献する基本理念は不変であること、最近の本学の活動紹介等の内容を含めた祝辞とあいさつがありました。続いて、尹炳虎先生（江原大専任教授）が韓国支部の支部長（会長）になることの報告とあいさつがあった後、予め作られていた韓国支部旗が平野総長から尹先生に渡されました。続いて行われた懇親会では、伊藤代表幹事のあいさつの後、参加者全員が現況や日本留学時の思い出を語り、また、会場のあちらこちらで、名刺の交換や久々の対面を喜ぶ姿が見られるなど、終始和やかな雰囲気ではが進行しました。韓国支部では、今後、年1回総会を開き、同窓会活動を活発に行っていくことにしています。（名大トピックス No.145より抜粋）

General meeting for founding NUAL Korean Branch was held on the afternoon of Thursday May 5th at Amiga Hotel, Seoul. Dr. Shin-ichi Hirano, President of Nagoya University, and Dr. Yoshihito Itoh, Representative Secretary of NUAL, attended the meeting which had inaugurated the first overseas branch of NUAL, and some 30 participants joined the meeting, including presidents and representatives of 6 smaller alumni associations organized by exchange students of Nagoya University and others, to celebrate the founding of the branch.

韓国支部幹事名簿

役 職	氏 名	卒業年、卒業学部／研究科
韓国支部長	윤병호 尹炳虎	1978年 農学研究科博士後期課程
韓国支部総幹事	조준형 趙駿衡	1989年 工学研究科博士後期課程
慶南・釜山地域会長	이동환 李東煥	1984年 工学研究科博士後期課程
全北・全州地域会長	최동성 崔東晟	1987年 農学研究科博士後期課程
全南・光州地域会長	김판채 金判采	1990年 工学研究科博士後期課程
慶北・大邱地域会長	김규원 金奎元	1986年 農学研究科博士後期課程
忠南・大田地域会長	서태수 徐胎洙	1984年 工学研究科博士後期課程
ソウル・京畿地域会長	왕성우 王成宇	1987年 農学研究科博士後期課程

海外支部設立の動き

韓国支部に続き、今年の10月23日にはバングラデシュ支部、11月11日には上海名大同窓会（中国）が設立されます。また、タイでも支部設立に向けて準備が進んでいます。海外支部の動きについては、今後もニュースレターでお知らせしていきます。



趙駿衡

韓国支部 総幹事 江原大學校教授

- 나고야대학 동창회 한국지부 총무간사 강원대학교 교수 조준형 -

2005년5월5일 서울에서 나고야대학 히라노총장을 모시고 정식으로 창립총회를 개최하였다. 전국 각 지부의 회장단 약30명정도가 모여서 행사를 치루었다.

동창회 한국지부는 6개 지부로 구성되어 있으며, 서울·경기지역지부, 충남·대전지부, 경북·대구지부, 경남·부산지부, 전남·광주지부, 전북·전주지부로 조직화 되어있으며, 각 지부에서는 정기적으로 지역 동창회를 개최하고 있다. 한국나고야대학동창회는1990년8월 경춘천에 위치한 강원대학교에서 처음으로 모임을 갖고 시작하였다. 동창회원은 전국에서 약20명정도가 모였다.

그전에는 동창회원의 직장, 주소 연락처를 갖고 있지 못하였다. 그 이후에 지역 지부를 만들고 지역 회장을 선출하였으며 매년 지역을 순회하며 한국 동창회 모임을 개최하였다.

한국나고야대학 동창회 모임은 주로 여름방학기간을 통하여 열리곤 하였으며, 그 이유는 대부분의 회원들이 대학에 근무를 하고 있어 방학기간에 시간을 내기가 수월하기 때문이다. 우리 모임의 특징은 직업이 다양하지가 못한 점이다. 대부분 유학생 시절 전공영역이 자연계열에 집중되어 있었기 때문이라고 사료된다. 따라서 대학교수, 연구소 연구원등이 대부분이었다. 현재 파악하고 있는 동창회원은 1980년대 유학했던 회원들이며 그 이후의 동창회원들에 대해서는 데이터가 없는 실정이다. 이러한 부분은 앞으로 나고야대학 동창회 사무국에서 유학생들에 대한 본국 주소와 연락처를 우선 데이터화 하는 것이 필요하며 유학을 마치고 귀국 후, 취업관계를 해당 학생 연구실을 통해 꾸준히 리스트화 해야 할 것이다. 이러한 내용들이 정리가 될 때 각국의 동창회 지부와 긴밀한 연락을 통해 나고야 대학 총동창회가 더욱 더 발전할 수 있을 것이라 생각한다. 앞으로 나고야대학 동창회 사무국을 통하여 한국 유학생 리스트를 수집하여 나고야대학동창회 한국지부의 활발한 회원들간의 유대관계를 만들어 갈 것이다.

지난 5월5일 한국 지부 행사에 참석하여 주신 나고야대학 총장님께 다시한번 감사말씀드리며 간단히 글을 맺고저 한다.

名古屋大学全学同窓会韓国支部は、2005年5月5日、ソウルで名古屋大学の平野総長を迎えて、正式に設立総会を開催しました。設立総会には全国各支所から約30名が集まり、盛大に行われました。

名古屋大学全学同窓会韓国支部は、ソウル・京畿地域支所、忠南・大田支所、慶北・大邱支所、慶南・釜山支所、全南・光州支所、全北・全州支所の6つの支所からなり、それぞれ定期的に地域同窓会を開催しています。韓国の名古屋大学同窓会は、1990年8月頃、春川市にある江原大學校で最初の会合をもち、全国から約20名の同窓生が集まりました。同窓会結成以前は、同窓生の名簿すら整っていませんでしたが、これ以後は地域支部をつくり、それぞれ地域会長を選出して、毎年、地域支部の持ち回りで全国の会合を開催してきました。韓国名古屋大学同窓会の会合は、主に夏休み期間を利用して開かれてきましたが、その理由は多くの会員が大学に勤めているからです。韓国名古屋大学同窓会の特徴は会員の職業構成が多様でない点にあります。会員の留学当時の専門が理系に偏っており、現在の職業構成も大学教員、研究所の研究員が大多数を占めています。

現在、連絡先を把握している同窓会員は1980年代に留学した会員がほとんどで、それ以後に留学した同窓会員についてのデータはあまりありません。したがって、名古屋大学全学同窓会事務局が中心となって、留學生の本国住所と連絡先をデータベース化し、さらに帰国後も留學生の就業状況等を留學生が所属していた研究室を通じて、継続的にリスト化していくことが必要だと思えます。このようなデータが整理されれば、各国の同窓会支部との緊密な連絡関係が可能となり、名古屋大学全学同窓会はより発展していくと思えます。今後、韓国支部は、名古屋大学全学同窓会の事務局を通じて、韓国出身留學生のデータを集めて、それをもとにして、会員同士の活発な活動を展開していく予定です。

最後に、去る5月5日の韓国支部設立総会に御参席いただいた名古屋大学総長に感謝の意を表します。

(名古屋大学環境学研究科社会学講座魯富子助手記)

特集2 名大今昔 Nagoya University: Past and Present

第1回 嚶鳴寮 Ohmeiryō

本特集は名古屋大学の学生に関わり深い建物やイベントなどについて、各世代の同窓生による回想をもとに、名古屋大学の歴史を紹介する特集コーナーです。

第1回は名古屋大学学生寮の嚶鳴寮です。嚶鳴寮は名古屋大学の前身の名古屋高等商業学校の学生寮としてスタートし、昭和区桜山付近にありました。1961年に山手通り沿いに新寮が建設され、2002年に現在の国際嚶鳴館が建設されました。

This special feature introduces the history of Nagoya University focusing on its buildings and events closely associated with the students' life. This is made through recollections of alumni belonging to various generations.

The first issue features "Ohmeiryō", Nagoya University's student dormitory. Ohmeiryō was established near Sakurayama, Showa-ku, as a dormitory of Nagoya Koto Shogyo Gakko, which was the predecessor of Nagoya University. A new building was built along Yamate-dori avenue in 1961. The present dormitory "International Ohmeikan" was built in 2002.

戦後の寮生活（1950年代）

木本三夫



1953年旧制名古屋大学工学部卒業。中京油脂（株）専務取締役、日本化学協会副会長、名古屋大学工学部非常勤講師10年間、愛知工業大学非常勤講師15年間などを経て、現在、愛知県特異火災アドバイザー、全日本学生剣道連盟副会長、パイロットインキ技術顧問。

八高（第八高等学校；名古屋大学教養部の前身）は戦災で焼け、北寮だけが運良く残った。一方、名高商（名古屋高等商業学校；名古屋大学経済学部の前身）は戦災に遇わなかったため、校舎、寮（嚶鳴寮）共にそのまま残っていた。八高の寮は教室に様変わりしたが、名高商は学校の体をなしていたので、嚶鳴寮も名高商の寮として使われていた。

昔の電車通り（高辻方面から桜山を経て今の博物館まで市電が走っていた）に面して、名高商の中に剣陵会館（キタン会*の本部）があった。その一階には剣陵食堂があって、桜山付近に下宿している各学校の学生の食事を賄っていた。

嚶鳴寮は剣陵会館の東側に、木造二階建ての北、中、南、巽の女人禁制の各寮からなり渡り廊下で結ばれていた。部屋は押入付き八畳程の畳敷き、各自机なり本箱を持ち込んで自分の城をつくる質素なものであった。戦後の物も無い金も無い親は自分の食い代で精一杯、十分な仕送りなど出来ず、一般の学生は殆ど貧乏な生活であった。風呂は燃料不足で決められた曜日にしか焚けず、このため寮生は付近の風呂屋

に安価な学割料金をお願いしたこともあった。剣陵会館の食堂は食費が高かったため、寮生は食費の安い嚶鳴寮の食堂を利用していた。

学生寮の名前は名高商の嚶鳴寮を引き継いだ。寮生たちは八高の寮歌を歌い、八高寮生のバンカラ風を引き継いだ生活振りだった。例えば、トイレは別棟の一階にあるので、夜は寮雨を降らせる（屋根からトイレをする）ことも行われた。

昭和三十四年、伊勢湾台風襲われた老朽な寮は無惨なもので、一部硝子戸は飛散して屋根は吹っ飛び、崩壊を心配して隣の郵便局への避難命令が出た。一時的に雨漏り等を修理したものの建物の傷みは酷く、名高商跡地を名古屋市に譲る際、新寮を八事日赤付近に建設して、ここに嚶鳴寮は桜山の地を離れることとなった。

学生寮について忘れてはならない歴史がある。現在の寮生には考えられないような「学生運動」との関わりである。寮の生活が若者に時間と空間を提供して、戦前の学生は人生を論じ、戦後の学生は敗戦の苦しみから政治を論じた。嚶鳴寮が名高商から名大に移管されて暫く経ち、六十年安



1950年代の桜山嚶鳴寮内の一室「経済学部卒業アルバム」昭和30年代版より

* 名高商及び名古屋大学経済学部の同窓会

保反対運動が最も激しくなった頃、多くの大学では自治を掲げる寮が学生運動の拠点となった。寮生は思想問題は別に、安保闘争のデモへの参加を余儀なくされていった。嚶鳴寮も例外ではなく、自治の下、夜毎討論が繰り返されて学生運動の場となっていた。その後、文部省や大学は新寮を建設し、新しい規則のもとに寮の自治にも関与して、学生運

動の排除を押し進めた。

今の学生達の物質に恵まれた個室の寮生活では、人生を論じることも政治を論じることも稀になって、寮が舞台となった学生運動も終焉を迎えて「平和」な寮となった。

尚、この文は、私の記憶と退官された名大名誉教授等の話をまとめたものである。

嚶鳴寮と嚶鳴館（1960年代）

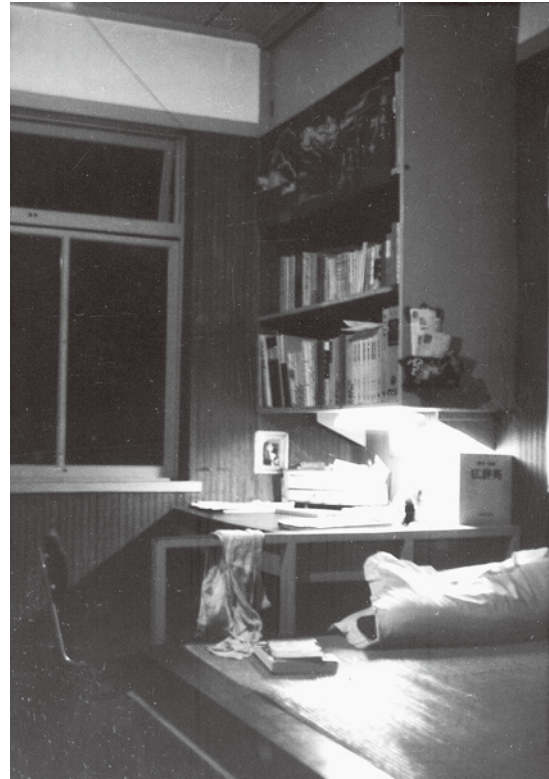
伊藤 潔



1967年理学部卒業。
現在京都大学防災研究所地震予知研究センター。

過去を振り返るとき、あの日に戻りたいと思う時期がある。私にとって、嚶鳴寮で過ごした時期はそのような日々である。田舎から布団袋一つで入寮した日のことは今でも鮮やかに覚えている。文字通り期待と不安でいっぱいであった。入寮した時期は学生運動が盛んな頃で、すぐさま寮費値上げ反対闘争に巻き込まれた。寮費を寮委員会がプールして不払いをやったために、親に請求がいくなどいろいろあった。当時寮委員会は寮生の入寮選考権を持っており、とかく学生部ともめ事が絶えず、緊張感があった。そのためか、夜を徹していろいろな議論をし、寮生間の人間関係も非常に濃厚にならざるを得なかった。入寮の最大の条件が経済状態であったため、貧乏学生の巣窟でもあった。そんな中でもワンダーフォーゲルとかでたびたび山などに出かけた。この経験はその後、地球物理学を専攻してフィールドワークに出かけるようになって大いに役立った。特に南極で越冬し、大陸上でグループを指揮して観測する際には、技術的なことだけでなく、人間関係のまとめかたなどにも役だった。

ところで、最近久々に「嚶鳴」という、滅多に聞かないことばを聞いた。私は熊本県人吉高校の出身であるが、人吉市は相良（さがら）藩の城下町であった。西南戦役の時は西郷軍が敗走の途中に、戦火を交えた場所でもある。ところで、人吉藩の藩校は天明六年（1786）に東白髪によって創立され、「習教館」と呼ばれ、人吉高校の母体になったが、その看板が現在母校の図書室にあるという。この東白髪は尾張の儒者細井平洲の私塾「嚶鳴館」で学んだというので



筆者の寮の部屋（2人部屋）、1963年頃

ある。細井平洲は米沢藩の上杉鷹山の師として、米沢藩の藩校などの設立に力を尽くしたことで有名だが、相良藩の藩校の設立にも力を発揮していたという。平洲は尾張の国知多郡平島村（現東海市荒島町）の生まれで、嚶鳴館は26歳の時江戸で開いたという。東海市に平洲記念館がある。平洲の教えは「学問は庶民のため、生活に役立つため」と言われ、実学的で、政治的には身分制度を打破する自由・平等の思想をもち、著書の「嚶鳴館遺草」は吉田松陰や西郷隆盛など幕末の志士たちにも影響を与えたといわれる。平洲は尾張藩の藩校「明倫堂」の初代校長もつとめており、「嚶鳴寮」という名高商の寮の名前には平洲の「嚶鳴館」が関係しているのではないかと推測している。もし、そうであれば、嚶鳴寮は私の高校にもつながりがあるということになる。江戸時代からの長い教育の歴史が現代の日本を築いて来たことを改めて認識し、最近の学校の状況を見ると、現在の教育が本当に次の世代を築いていけるのか心配になっている。

嚶鳴寮写真集 (1970年代)



(上) 嚶鳴寮の玄関と木札。写真提供者の中村さんと。



(右上) 寮内ワンダーフォーゲル部 夏の北アルプス縦走登山 (薬師岳)



(右) 年2回、夜10時から行われた寮生大会。政治スローガンに混じって、「銭湯なみの風呂を保障せよ」といった垂れ幕が見える。



1974年の第14回嚶鳴寮祭プログラムより

(写真提供者)

中村 茂喜さん

1976年教育学部卒業。名古屋市立若水中学校教諭

転換への序章の時代 (1980年代)

林 政彦



1987年工学部卒業。

大学院理学研究科を経て、現在学校法人福岡大学理学部地球圏科学科教授。

80年代の寮生活から抜け出すのに8年かかってしまった一寮生の回顧録です。同室になった先輩は2年留年しながら、生き生きとしている。煙草の煙で霞んだ廊下の奥から、夜な夜な麻雀の音が響いてくる。自治会活動、サークル活動で深夜まで躍動している。「まじめな」高校生だった私の価値観は、入寮と共に根底からひっくり返されました。一方で、8年に及ぶ在寮中に、そんな世界の基盤が変わり始めていました。

変化はいろいろな面で現れました。大学との話し合いによる交渉により、湯船に浸かれば足が見えない「紅茶風呂」からの脱却などの居住空間の整備は進みました。一方で、高熱水料の値上げなどの「受益者負担」が進行し、貧乏学生の代名詞であった寮生にも車所有者が増えました。「教育の機会均等の保障」という、厚生施設としての役割はほ

やけてきました。相容れないと一部で言われていた男子寮と女子寮の関係にも変化があり、うたごえサークル「和の芽」に女子寮生が入るなど男子寮・女子寮の交流が進みました。さらに、文化誌「交響」の発行(写真)、地域との交流も視野に入れるなど、積極的な変化を見せつつ、活発な活動が展開されていました。

しかし、「価値観の多様化」が言われ始めたことに呼応するように、寮自治会の活動に対する様々な見方も表面に出てきていました。平和運動に自治会が取り組むことへの疑問が正面から議論されました。文化行事である寮祭に対する考え方にも、「演劇に順位をつけるのはやめよう」、「ブロック対抗はやめよう」など、それまで伝統的におこなわれてきたことに対して、ある意味で当たり前の疑問が提示されるようになりました。嚶鳴寮を文化行事から見たとき、文化行事は文化・スポーツを通じて寮集団の単位であるブロックの団結を育む場



嚶鳴寮生による文化誌「交響」

だったのかと思います。それが、個人が文化・スポーツを楽しむ場に変化しつつあったように思います。そんな意識の変動の中で、文化誌「交響」第5号は「集団と個人」を特集として組みました。

私の卒業の頃は嚶鳴寮の雰囲気は入寮時の雰囲気を残し

つつ、大きな変化の足音が聞こえてきていました。その足音は、比較的揃った方向のベクトルを共有した集団から、様々な外向きのベクトルを持った多様な個の連合体への一歩だったように思います。

嚶鳴寮から国際嚶鳴館（現在）

石井慎治



国際嚶鳴館の台所（右が筆者）

2005年前期寮長。
工学部機械航空工学科2年。

嚶鳴寮が国際嚶鳴館になってもうすぐ3年になろうとしています。私はここで2年半生活をしてきた、新寮だけを知る最初の寮長です。山手通り沿いの新しいマンション群と共に輝き建つ嚶鳴館を、昔の方々はどう見られるでしょうか。内観も、一人部屋でユニットバス付き、ビジネスホテルを思い出してもらえば一番想像しやすいと思います。しかし各階のブロックごとには共同のリビングやキッチンがあり、1階フロアには全員が集まることができる多目的ホールが設けられています。この寮で、留学生と日本人学生300名以上が一緒に生活しています。

旧寮と新寮の様々な違いの中では、まず留学生が共に住むようになったことが大きな変化と言えます。文化の違いや考え方の違いでいろいろな問題も生じ、ひとつの例としてゴミの分別などは、寮生の説明力、そして適応力や理解力が試されるものです。また、十分にコミュニケーションが取れる言語が互いにはない場合が多く、日本人寮生と留学生寮生の間に交流の壁ができることもあります。せっかく共に住んでいるので、互いに積極的にコミュニケーションを取り合えるようにする工夫が必要です。自治会議などでこれらの問題を解決するための方法を考えていかないとはいけません。

そして、旧寮と新寮のもうひとつの大きな違いは、寮の管

理運営形態です。昔は入寮権や退寮権が寮生たちにあり、寮自体を自分たちで運営する活動が激しかったと聞いています。現在では寮の生活はほとんどの部分を大学側が管理しており、自治活動の範囲は縮小されています。今は週に一回各ブロックで会議を行っています。最近ではその会議も無くしたらいいいのではという意見も出ています。しかし、会議は自治だけでなく、共有スペースも多いのでみんなが住みやすい寮を作るために必要ですし、みんながコミュニケーションを取る場所でもあります。こういう会議があるからこそ、マンションのように隣人を知らないということはなく、ブロックに一体感が生まれているのだと思います。

寮では年に3回の祭り（新歓、バタ祭、寮祭）があります。これは、階ごとでチームを組んでスポーツをしたり、全体でコンパをやったりするもので、ブロックの団結力をより高める機会でもあります。こういう行事を通じて、留学生と日本人学生が互いにコミュニケーションをとり、寮全体が活気付くようにしたいと思っています。

近代型に生まれ変わった寮の中でも、昔から大切にされてきた寮生同士の交流や団結は失うことなく、さらに楽しい寮にしていきたいです。



現在の国際嚶鳴館個室の机。ノート型パソコンが時代を物語っている。

特集名大今昔の次回は「食堂」を予定しています。毎日お世話になった食堂について、学内、学外を問わず、思い出等がありましたら、同窓会事務局までお寄せください（1000字以内）。写真などもあればさらに雰囲気が良く伝わるでしょう。
The next issue will feature "restaurants". Short articles or photos of your recollections about restaurants on/off campus will be very much appreciated.
(NUAL Office)

同窓会支援事業 NUAL Supprt Project

全学同窓会では、全学同窓会の活動理念に沿った名古屋大学の活動（学生活動、就職支援事業、本部・部局による行事・寄附講義等）への支援を目的として、平成16（2004）年度より、公募型の大学支援事業を開始しました。この事業は年2回募集を行い、選考に当たっては選考委員会を組織し、厳正に行っております。

昨年度は多くの応募をいただき、大変好評を博しました。今後も、さらに大学支援事業を拡充していく計画ですので、皆様からのご支援をお願い申し上げます。初年度採択された5件の事業（支援額合計1,865,000円）について、以下担当者より報告いただきました。（全学同窓会代表幹事 伊藤義人）

NUAL commenced an open invitation type support project from 2004 for Nagoya University's activities (including student activities, employment support service, events and lectures) in harmony with the activity principle of the association. This project extends invitations twice a year and the Selection Committee is organized to implement a strict selection of activities. The followings are summaries concerning the five activities selected in the initial year of the project (amounting to a total of ¥1,865,000).

キャリア形成論

For Your Human Resources Development

申請代表者：田中宣秀（学生相談総合センター
就職支援アドバイザー）



キャリア形成論講師の今泉 衛氏（左）と聴講する学生たち（右）

「上司に従うのではなく、自分が共感できる価値観を持った会社で、組織の進むべき道を提案する人材になって欲しい。そのためには各自が新たな価値観を創造し発案できる実力をつけることが大切です」。これは教養基礎科目のひとつである「キャリア形成論」の講義のなかで、講師の今泉 衛さん（1974年工学部卒、ブラザー工業株式会社）から学生たちに熱く語られた言葉です。この講義は、全学同窓会の寄付を得て、「激変する現代社会で自分を生かすキャリア形成をどうしていくか」というテーマの下に実施されています。産業界、法曹界、行政など様々な分野で活躍されている本学卒業生が講師となって、それぞれの立場や視点から産業界の動向、人材育成策、職場で働くための心構えまで、ご自身のキャリア形成を柱にして、経験や知見を語るという内容です。受講生が2年生以上の全学部生ですが、毎回活気あふれる質疑応答がなされており、学生達は、今後のキャリア形成のためには大学時代に何をすれば良いのか、それぞれの答えを見つけたていいてくでしょう。なお、キャリア形成論の受講希望者が極めて多いので後期も開講されます。

リユース市

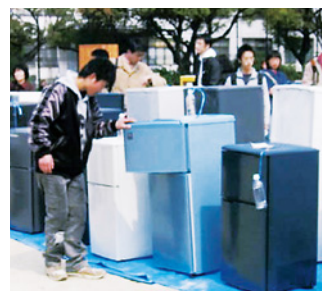
Reuse Market

申請代表者：立石啓介
（リユース市実行委員会委員長、経済学部3年）

この度は、全学同窓会支援事業に第10回名古屋大学下宿用品リユース市を採択して頂きありがとうございました。毎年春に行なわれているこの市は、卒業シーズンに下宿先を引き払う下宿生が、家具・家電などを新入生に再び使用してもらい、という資源有効利用を目的とした学生の社会貢献活動です。学内サークル Song of Earth の行事として半年かけて取り組み、当日は他大学の環境サークルや友人たちの支援も得て、運営しています。

今年も312品が集まり、当日4月1日には多くの方が来場し、ほとんどの下宿用品が新たな引き取り手へと渡りました。大切に使用した学生たちのおかげや実行委員たちの「磨き」の成果もあり、「新しくきれいなものが多い」「安い」など毎回好評です。

最も苦勞するのが保管場所の確保で、大学から空き倉庫や教室を借りるのですが、時には会場から遠かったり各所に分散したりして、そこでの準備作業はかなりの重労働となります。しかし、提供者にも引き取り手にも役にたち、環境にもよいこの活動を、今後とも地道に続けていきたいと思っております。今後ともご協力をよろしくお願いいたします。



お目当ての冷蔵庫を探す学生（左）と出品された家具・電化製品（右）

グローバル人材養成講座 (討論会とワークショップ)

What is "To Work Globally"?: Discussions and Workshop

申請代表者: 田中京子 (留学生センター)

名古屋大学留学生センターは、在学生の異文化理解を促進し、世界の人々と共に生き平和に貢献できる人間の育成をめざして教育を行っており、近年は学生の就職と産業への貢献も視野に入れた活動を推進しています。

この度全学同窓会の支援をいただき、在学生対象の講座を行なうことになりました。2005年10月22日(土)には下記の同窓生4名をパネリストとしてお迎えしグローバル人材について考える討論会を開催します。

- Prawat Phiencharoen さん (在タイ "Allied Metal (Thailand) Co., Ltd." 勤務、工学研究科1991年修了)
- 齋藤イヴォナさん (在名古屋「豊田通商」勤務、ポーランド出身、日本語・日本文化研修1998年修了)
- Tran Anh Trung さん (在ベトナム国営会社勤務、日本語・日本文化研修2000年修了)
- Yoshimura Gaston Edgardo さん (在東京 "Strata Works KK." 勤務、アルゼンチン出身、経済学研究科2005年修了)
また異文化体験ワークショップを行い、留学とも関連づけながらグローバルに働くことを共に考える場とします。

激変する現代社会の中で学生たちが世界を舞台に働く準備を進めていくための支援となることを確信しています。

名大祭

Nagoya University Festival

申請代表者: 村田 靖 (第46回名大祭実行委員会委員長)



名大祭は「名大生の主体的参加によって成り立ち、名大生の社会発表の場である」と謳われる一大祭典です。様々な参加方法により学生は、自分たちの活動を社会に向けて発表し、また名大

祭を通して集団としての交流・信頼・団結を感じることができます。

第46回名大祭は「道草」のテーマで6月2日から5日までの4日間にわたって開催され、運営費の一部を全学同窓会から支援していただきました。本学学生・教職員・OBの方々、地域

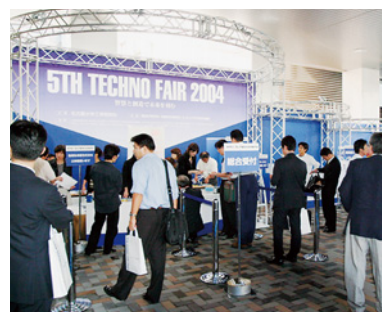
の多くの方々の参加により、一大祭典となりました。100にも及ぶ企画や200を超える模擬店・フリーマーケット、さらに50近い研究公開が行なわれ、観客動員数も約5万人にのぼりました。昨春秋開通した地下鉄「名古屋大学駅」は週末、これまでに見たことのないような多くの乗客でにぎわい、名古屋大学が地域の中で大切な知的活動交流の拠点となっていることを改めて実感しました。

いらしてくださった方たち、学生たちの力を感じてくださったことと思います。いらっしゃれなかった方たち、来年も6月に行なう予定ですのでぜひご都合をつけて母校をお訪ねください。

テクノフェア名大“2005”

Techno Fair 2005

申請代表者: 澤木宣彦 (工学研究科長)



工学研究科では、大学の持つ多くの知的財産等を活用し、社会貢献の機能を果たすことを目的に、「テクノ・フェア名大」を1999年から開催しています。これは、地域産業界との密接な

交流を図り、大学の研究成果の活用を通じて新規産業の創出や既存産業の技術の高度化を推進する機会として、工学研究科各研究室が保有する研究シーズ(種)の紹介、研究室の公開及び講演会等を行っています。過去5回の催しでは、企業の研究者や一般市民等多くの方が来場され、昨年は約1,000名の方が参加するなど、来場者も年々多くなり、本フェアは、社会や産業界にも広く認知されてきています。

また、昨年度からは、工学研究科だけではなく、情報科学研究科、環境学研究科、エコピア研究機構等工学系の各部局も参加し、ますます盛大な催しとなっています。

今年は、「テクノ・フェア名大“2005”」として11月11日(金)10時から17時の間にIB電子情報館において開催し、約40の研究室による研究シーズの展示と大講演会及びミニ講演会や研究室公開を行い、産業界や一般市民との密接な交流を図っていきます。

なお、本フェアは、全学同窓会支援事業に採択されました。全学同窓会を通じて、広く同窓生に本研究科の産学連携の取り組みを知ってもらい、同窓生との繋がりも深めながら産学官連携の推進を図っていきたくと考えています。

活躍する会員たち NUAL People in Action

「活躍する会員たち」では、同窓会会員たちの各界における活躍ぶりをご紹介します。第二回目は、チェリストとしてご活躍中の長谷部一郎さんと、重力異常を利用して地下の断層を調査されている中部大学教授の志知龍一さんに寄稿をお願いしました。

This column “NUAL People in Action” features our alumni playing active role in various fields. In this second issue, we have articles contributed by Mr. Ichiro Hasebe, a renowned cellist, and by Mr. Ryuichi Shichi, professor of Chubu University, who is engaged in research of underground strata utilizing the concept of gravitational anomaly.



長谷部一郎さん

1970年名古屋生まれ。4歳からチェロを始める。94年経済学部経営学科卒業、95年桐朋学園大学ソリストディプロマコース修了、第64回日本音楽コンクールチェロ部門第1位、あわせて松下賞を受賞。サイトウキネンフェスティバル松本、宮崎国際室内楽音楽祭に参加。これまでに新日本フィルハーモニー交響楽団、東京交響楽団、東京シティフィルハーモニック管弦楽団、桐朋学園オーケストラと共演。倉田澄子、堤剛、山崎伸子、中島顕、P・ミューレル、M・ブルネロの各氏に師事。現在新日本フィルハーモニー交響楽団フォアシュピラー。 (HP www.d1.dion.ne.jp/~tatesina)

大学1年の夏に草津の音楽祭に参加し、C. ヘンケル氏のレッスンを受けたことが決定的な転機でした。チェロを始めたのは4歳で、専門的な教育は受けていませんでしたがかなり一生懸命でしたし、高校（菊里の普通科）では音楽科の人たちと交流があったにもかかわらず音楽大学に進むことは発想にありませんでした。けれどヘンケル先生のレッスンで音楽はこんなに素晴らしいものかと思い、どうしてもチェロだと感じたのです。その年のうちに東京までレッスンに通うようになり、大学2年が終わった時点で桐朋学園のディプロマコースを受験し、入学します。

とりあえず名大は休学し、音楽に専念しました。当時下宿で音を出すことができなかったので、朝から晩まで桐朋にいてさらって（練習して）いました。小さな学校で、校舎は名大の中央図書館くらいしかありません。でも本当に刺激的でした。在学中に数々の忘れられない出会いがありました。故 S. ゴールドベルク、故 A. シュナイダー、L. フライシャー、A. ビルスマ、カーティス音楽院の学生、パリ音楽院の学生…。少し様子が見えてくると、ひょっとして名古屋も卒業できるか

もしれない、と思い半年で復学しました。

随分運がよかったと思います。例えば金曜日の11時50分まで桐朋でソルフェージュの授業を受け、仙川12時発の京王線に飛び乗ると、東京駅1時発の新幹線に間に合い、ゼミにどうにかこうにか出席できました。藤瀬先生のご理解がなければとても無理だったと思います。まるで子供の作文のような恥ずかしい卒論を書いて1年遅れて卒業証書を頂きました。テーマは1929年の恐慌に関することでした。時々経済学部にはいたことはきっと音楽にもプラスでしょう、というようなことを聞かれることがありますが、僕自身はほとんど何も関係が無いと思っています。ただ、一つの現象に対して様々な考え方があつた、ということを知ったのは本当に大きなことでした。

名大にさらに1年遅れて桐朋も修了し、その年の日本音楽コンクールで賞を頂きます。音楽で点数をつけたり、優劣を決めたりするのは好きではありませんが、賞をもらって経済的に自立できるようになりました。それからしばらくフリーで仕事をします。随分自由な時間だったと思います。20代後半で大きなことといえば毎夏イタリアに勉強に行っていたことでしょう。

トスカナ地方にシエナという古い町があり、そこで伝統のある音楽講習会があり、僕は M. ブルネロという素晴らしいチェリストに出会います。忘れもしない最初のレッスンはシューマンのコンチェルトで、情熱と知性の合致に目から鱗が落ちる思いでした。再現部に辿り着いた時「(ソロのパートは提示部と一緒にだけど) オーケストレーションが分厚いからいっぱい弾かなくてはならない」と言って凄まじく熱い音で弾き始めたのです。部屋がびりびり振動するくらいの音量で、あまりのことに膝が震えました。彼は、午前中のレッスンが終わってからも各国からきた生徒とよく遊んでいました。溜まり場になっていたアパートに来て、パスタのゆで具合にこだわって一緒にご飯を食べたり。最終日生徒の演奏会が終わると、さんざん打ち上げて騒いでから、真夜中のカンポ広場いっぱい水かけっこ（water battle と呼んで

いた)が始まり、全員がずぶぬれになる頃夜が明けて、町のパールが開くのを待って皆でカプチーノを飲んで、また来年！と解散しました。

いつもチェロに専念していた訳ではなく、釣りや写真に熱中したこともあります。野良猫の写真は世界観が変わるくらいおもしろくて、チェロはどうしてもよかった時期もあります。それに職業上いろいろな音楽家に会えるので被写体にはまったく困らなかったのです。今はチェロに戻っています。ただし今もその頃の名残で猫を見るとカメラを出します。

30歳を過ぎてからオーケストラに入りました。西洋音楽のレパートリーを大きな樹に例えると、残念ながらチェロのソロの曲は、限られた作品を除いて、どうしても枝や葉になってしまいます。このあたりがピアノやヴァイオリンと大きく異なるところです。交響曲は作曲家が大変なエネルギーを注ぎますから、幹になっている作品が多いと思います。バッハの管弦楽作品、ベートーヴェンの9曲の交響曲、モーツァルトの交響曲・ピアノ協奏曲、ブラームス、バルトーク……。時として100人近い編成になるオーケストラの中で一人のチェロ弾きは小さな歯車かねじですが、その醍醐味はソロではどうしても体験できません。今年の2月、F.ブリュッヘン氏が来日して新日フィルと二つの仕事をしました。一つはラモー、モーツァルト、シューマンのプログラム、もう一つはシューベルトの2曲の交響曲でした。それぞれ3日間のリハーサルでしたが、大げさなことは何もしていないのに3日目のリハーサルで景色がまったく変わります。魔法でした。彼が何かをいじった訳ではなく、僕らの中で滞っていた音楽の通り道を整えただけ、という印象でした。あの2週間は特別な、体験するしか説明のしようのない時間でした。今でも大きな励みです。

音楽家は楽な仕事ではありません。技術は毎日弾いていないとあっという間に衰えますし、チェロは持ち運びも大変だし(飛行機ではもう一席必要です。どうにかして欲しい、食事は一人前しか出てこないのに)、時として舞台では強いストレスがかかります。でも34歳の僕を振り返ると、高校と大学受験前の数ヶ月間を除いて、ものごころつく頃からいつもチェロと一緒にいました。どの時期を思い返してみても思い出がチェロにも結びついているのは幸せかもしれません。これまで音楽的に何か問題があると、いつも技術的に解決しようとしていました。でも今は楽器が声になるように、感じたことを技術に翻訳しないでそのまま音にできるようにしたいと思っています。



志知 龍一さん

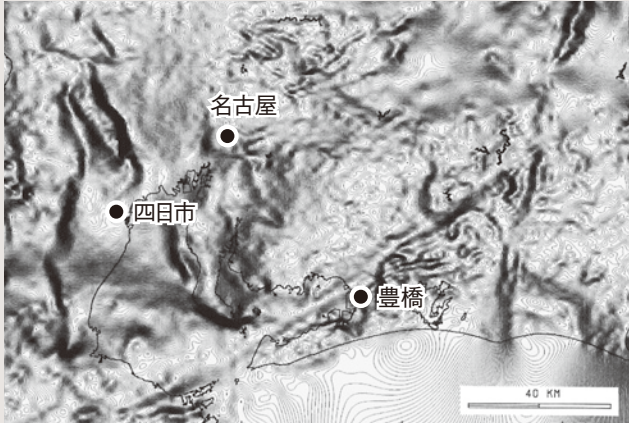
1959年理学部地球科学科卒業、1962年大学院理学研究科(地球科学科専攻)修了後、理学部附属地震火山観測地域センター助教授、理学部地球惑星科学科教授などを経て、現在中部大学工学部理学教室教授。2004年日本測地学会賞(坪井賞)第4回団体賞受賞。

重力測って断層見つける

今回は、ちょっと毛色が変わった地図(次頁の図)をご覧ください。話題にしましょう。お分かりのように、東海地方です。帯状に黒い筋が幾つも見えています。特に、養老山脈や伊勢湾の知多半島の西側のほか、鈴鹿山地に沿って南北に伸びた線などが眼を惹きます。この図は、何を表しているか説明しましょう。

$g = 9.8\text{m/s}^2$ としておなじみの地球の重力は、決して一定値ではなく場所ごとで随分異なります。各地でこの重力を重力計で正確に測って、それが標準の値に比べてどれだけずれているかを、幾つかの補正を施して計算したものを「重力異常」といいます。地下岩石の密度が場所ごとに異なるために引力の差となって現れたものです。この図は、重力異常の分布を等高線と同じように描いてあります。では、図で黒くなっている箇所は? 重力異常が大きく変化する所、つまり地下岩石の密度が急に変わる所、すなわち断層です。断層は、もう古く固まっていたものもありますが、まだ新しくどんどん成長し続けているものも多く、これが「活断層」で地震を起こす元凶に他なりません。活断層が20~30kmの長さで動くと、マグニチュード7クラスになってしまいますので大変です。規模の大小はあれ、活断層の「可能性」のある筋が随所に見られ、そうした所では将来的に地震につながる可能性を考えて、マークする必要があることを教えています。1995年阪神地震はマグニチュード7.2の大地震でしたが、淡路島・六甲山南麓・宝塚にかけて重力異常で真黒にくっ

(重力異常図)



名古屋周辺



阪神地域

きり表れた活断層に沿って発生したものであります。

天災は忘れた頃にやってくる、とは地震学者としての寺田寅彦先生の有名な言葉ですが、近年様子が随分変わってきてしまったような気がします。阪神地震から10年、まだ生々しい記憶がさめやらぬうちに、鳥取県西部地震・新潟県中越地震・福岡県西方沖地震と立て続けに起こり、スマトラでは地震そのものの規模の大きさに加え史上最悪の津波です。近年100-数10年の間に人類が成し遂げた大発展の裏で、そのマイナス面が表れている一側面を表しているようにも思われます。こうした背景で発足した

日本の地震予知計画、すでに40年が経過しました。この間、確かに学問的には格段の進歩を遂げつつも、実効ある予知がなかなか進んでいないことに、当初から当事者の一人となった自分自身も心が痛むばかりです。私は最初地震予知の本命と目された地殻変動の観測から入り、後半重力異常の研究に携わり、これがライフワークとなりました。今は、東海地方でご覧頂いたような資料が、日本列島全域に及ぶこと、そしてそれが地震予知の実現に役立てられることを念願し、さらなる努力をしたいと考えております。

◎全学同窓会支部、部局同窓会連絡先

全学同窓会は、部局同窓会と連携協力して活動しています。

全学同窓会 関東支部	全学同窓会事務局 TEL 052-783-1920 nual-jimu@post.jimu.nagoya-u.ac.jp	
全学同窓会 関西支部		
名古屋大学 遠州会		
全学同窓会 韓国支部		
文学部・文学研究科同窓会「あおぎり」文学部事務室気付 TEL 052-789-2226		医学部学友会 TEL 052-744-2512
教育学部同窓会事務局 森田美弥子 d42953a@nucc.cc.nagoya-u.ac.jp		工学部・工学研究科同窓会 庶務担当：岡野 孝 TEL 052-789-5485
法学部同窓会事務局 TEL 052-789-2312 dosokai@nomolog.nagoya-u.ac.jp		農学部同窓会「セコイア会」 dosokai@agr.nagoya-u.ac.jp
(社)キタン会事務局 TEL 052-963-6611 kitankai@crux.ocn.ne.jp		国際開発研究科同窓会事務局 alumni@gsid.nagoya-u.ac.jp
情報文化学部・人間情報学研究科同窓会 代表幹事：玉樹智文 TEL 052-789-3508		情報科学研究科同窓会 副会長：小畑 幸嗣 obata@takagi.nuie.nagoya-u.ac.jp
理学部・理学系研究科同窓会理学同窓会事務局 TEL 052-789-5564 cl@dousou.sci.nagoya-u.ac.jp		

支部・部局便り News from the Alumni Associations of Different Schools and Regions

部局や地域ごとの同窓会から寄せていただいた便りを掲載します。伝統ある同窓会も、新たに設立される同窓会もありますが、それぞれが全学同窓会とも連携しながら活動しています。

Here you can find announcements and news from alumni associations of schools and/or regions. These associations and NUAL are cooperating with each other to everyone's benefit.

工学部・工学研究科電気系同窓会（二葉会） Engineering (Futaba-kai)

工学部・工学研究科の電気系同窓会である二葉会は下記の日時に二葉会50周年記念新年合同同窓会を開催します。個別の学年および研究室単位での同窓会や在学生に対する就職支援も企画されますので、積極的なご参加よろしくお願いします。

日時：平成18年1月3日13時半より
場所：名鉄グランドホテル
会費：会員7,000円 学生1,500円

■連絡先：名古屋大学二葉会 事務局
futaba@nuee.nagoya-u.ac.jp
TEL & FAX 052-789-5273



榊名誉教授



中央：歓談する赤崎特別教授と稲垣会長

農学部同窓会（セコイア会） Agriculture (Sequoia-kai)



農学部第1回卒業生卒業50周年祝賀会

平成17年6月4日名古屋大学農学部大会議室に於いて、農学部第1回卒業生の卒業50周年記念祝賀会を、農学部談話会と共同で開催しました。物故者・海外在住者を除く15名中、9名の第1回卒業生と約30名の談話会会員、約20名の現職員ならびに同窓会役員が出席しました。祝賀会では齋藤哲夫名誉教授による講演「名古屋大学農学部の誕生」において、農学部創立当時の懐かしい写真が何枚も映し出され、昔話に花を添えました。来年は引き続き第2回卒業生の卒業50周年をお祝いする予定です。第2回卒業生のみなさん、楽しみにしててください。

同日、農学部第3講義室に於いて総会を行い、平成16年度の事業・決算報告を行った後、平成17年度役員を選出し、平成17年度事業計画・予算を審議しました。総会終了後、森康勝氏（（財）愛知臨海環境整備センター）による講演「“環境先進県” あいちをめざして」を開催しました。講演会には森さんと同窓の第14回卒業生の皆さんが多数駆けつけ、楽しい講演会となりました。講演会終了後、シンポジオン内“ユニバーサルクラブ”にて懇親会を開催し親睦を深めました。併せて第14回卒業生の同窓会が開催され、たいへんにぎやかな懇親会となりました。

祝賀会、講演会、懇親会の模様は農学部同窓会ホームページ (<http://www.agr.nagoya-u.ac.jp>) に掲示中です。是非ご覧ください。

■連絡先：dosokai@agr.nagoya-u.ac.jp

名古屋大学
農学部同窓会
セコイア会



クラブ活動紹介 Clubs and Circles

茶道部 (松尾流)



名大には茶道をする部はいくつかあります。その中の一つ、私たち「茶道部」は松尾流という流派です。ご存知ない方も多いと思いますが、松尾流は名古屋と京都を中心に活動しています。そのため先生方と距離が近く、直々に指導していただいたり、先生方の茶会を手伝うなどの貴重な経験をすることができます。部活動は火・木の週2回の学生会館での練習と月1回の先生の家での練習が中心です。そしてその結果として年4回の茶会を催しています。茶会ごとに茶菓子や懐石料理を自分たちで考えて作っています。(2004.11)

体操部 <http://www2.nagoya-u.ac.jp/taiso/>



私たち名大体操部は男子14名、女子4名と大きな団体ではありませんが、それ故みんな仲良く励まし合って活動しています。部活動は月曜、水曜、木曜、土曜(隔週)に第二体育館で行っています。秋から春にかけてはオフなので筋トレ、柔軟、新技の修得に精を出しています。

今年はインカレにも出場し、名阪戦は圧倒的に勝利、また七帝戦では13年ぶりに優勝しました。(2004.11)

児童文化研究会 <http://www2.nagoya-u.ac.jp/zidobunka/>



私たち児童文化研究会(以下、児文研)は「ほーきぼし」という名前で親しまれている子ども会を運営しているサークルです。児文研の歴史は意外に古く、伊勢湾台風の後にはボランティアとして学生が子どもと遊んでいたことが始まりだそうです。

現在、児文研では主に火曜日の家庭訪問と土曜日の実践を中心として活動しています。家庭訪問はその週の実践の内容を伝える場であると同時に保護者の方との交流を深める良い機会となっています。土曜日の実践では普段は鬼ごっこやドッジボールなどをして遊んでいますが、一年を通して夏休みのキャンプやオリジナル競技の運動会、新年会でのお餅つき、そして六年生を送り出す合宿などたくさんの行事を企画・運営し、子どもや保護者の方と一緒に楽しんでいます。(2005.3)

卓球部 <http://www2.jimu.nagoya-u.jp/takkyu/index.htm>



私たち名大卓球部は、初心者から10年近く続けている人など様々な人が、お互いに技術の向上そして勝利のために、みんな楽しく活動しています。部員数は男子25名、女子5名と意外と多い部活です。活動は火曜、水曜、木曜、土曜と第二体育館で正規練習を行っています。その他に対外試合や遠征試合もいくつかありとても充実しています。

今年は名阪戦を勝利し、七大戦では3位という結果でした。東海学生リーグでは現在2部で、来期にはなんとか1部に復帰したいと思っています。(2005.3)

児童福祉研究会 <http://www2.nagoya-u.ac.jp/zidofukushi/fken.htm>



こんにちは、児童福祉研究会です。私たちは毎週土曜日に和親館児童ホームという擁護施設を訪問して子供と遊んでいます。また、サマーキャンプやクリスマス会など季節ごとに様々なイベントを企画し子どもたちとのふれあいを楽しんでいます。サークル員は現在、30人ほどで男女比は半々です。(2005.7)

トライアスロン部 <http://www2.nagoya-u.ac.jp/triathlon/index.htm>



トライアスロンは大学からはじめての人ばかりで、実際は今の部員は全員が初心者でした。そんな私たちが今は7月31日の全国大学選手権東海予選通過を目標に追い込みをしています。練習は月曜、木曜に陸上、土曜に水泳、日曜に自転車をしています。それ以外の日にも誰かが練習をしているのでどの曜日に来ても部室には人がいます。(2005.7)

(学園だより 2004.11、2005.3、2005.7、より転載)

名古屋大学附属図書館と名古屋大学博物館をご利用ください

名古屋大学が目標として掲げる地域社会に開かれた大学としての取り組みの一つに、図書館と博物館の市民への開放があげられます。これは大学における知の蓄積を学外の方にも積極的に利用していただくというもので、中でも企画展示は多くの方々にも楽しんでいただけるよう工夫を凝らした内容となっています。展示に合わせた講演会やギャラリートークなどの催しも行なわれておりますので、是非お出かけください。また附属図書館と博物館にはそれぞれ友の会があります。ご入会をお待ちしております。

Nagoya University Library and Nagoya University Museum are open to public for promoting the intake and utilization of knowledge stored in the University. Their special exhibitions are designed to attract your attention and inspire your thoughts. Some lectures and gallery talks are also arranged. Both the library and the museum have a membership club and your subscription will be very much appreciated.

(ホームページ) 附属図書館 Nagoya University Library : <http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/>
博物館 Nagoya University Museum : <http://www.num.nagoya-u.ac.jp/>

◎附属図書館の最近の展示会

2005. 4. 28 ~ 5. 8	春季展「地域環境史を考える——所蔵資料とエコ（環境共生）コレクション・データベースでみる自然・災害・社会——」
2005. 6. 17 ~ 7. 8	企画展「説話の書物——小林文庫本を中心に——」

◎博物館の最近の展示会

2005. 1. 19 ~ 2. 18	第5回企画展「家族の肖像——分岐する世界と統合する意識——アーティスト小川信治と11人の名大生によるコラボレーション」
2005. 3. 23 ~ 7. 31	第8回特別展「時を測る——地球誕生から中世まで」
2005. 8. 6 ~ 10. 7	第6回企画展「核分裂絵巻」

◎開催中の展示会



名古屋大学附属図書館
秋季特別展
「知の万華鏡——書物からみた
18世紀の西洋と東洋——」
(2005.10.21~11.11)



名古屋大学博物館
新着標本
「奈良坂源一郎の蟲魚圖譜
明治の博物画」
(2005.10.19~10.28)

■附属図書館友の会 (<http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/tomo/index.html#nyukai>)

連絡先 名古屋大学附属図書館友の会事務局 TEL: 052-789-3666

会員の特典

一般会員

中央図書館利用証の交付（館外貸出可）* / 中央図書館で、学外への文献複写依頼が利用可* / 図書館
広報誌、館燈（季刊）、LIBST Newsletter（年3回）を毎号贈呈 / 附属図書館の主催する春、秋の企画
展示会・講演会などへの招待。

賛助会員

一般会員の特典のうち、*を除くすべて。

会費

一般会員 2,000円 / 年、賛助会員 10,000円以上 / 年

■博物館友の会 (<http://www.num.nagoya-u.ac.jp/friendship.html>)

連絡先 名古屋大学博物館 TEL: 052-789-5767 FAX: 052-789-5896

会員の特典

ニュースレターの送付 / 博物館が催す展示会や講演会などの案内 / 「友の会文庫」の利用。

会費

1,000円 / 年

事務局からのお知らせ From the NUAL Office

●支援会費のお願い Call for contributions

名古屋大学全学同窓会の活動は、皆様からの支援会費、寄附金に支えられております。本年もご協力をお願いいたします。

支援会費は年度ごとのお支払いとなります。支援会費の払い込み方法は、郵便振替か自動引落しのうちよりお選びください。昨年度、自動引落しをお申し込みいただいた方は、再度の手続きは不要です。

関係書類をご入用の場合は、同窓会事務局にご連絡ください。

NUAL activities are carried out with donations from supporting members. Your contribution will be very much appreciated.

○支援会費 Supporting Fee

支 援 会 員 Supporting member : 一口 5,000円

支 援 法 人 会 員 Supporting institution : 一口 50,000円

支援会費等は、全学同窓会の設立理念に合致する活動に使わせていただきました。(平成16年度実績)

主な収入(総額14,705千円)

支 援 会 費 11,662千円

寄 附 金 993千円

活 動 協 力 金 2,050千円

主な支出(総額13,923千円)

大学支援事業費 2,225千円 行 事 費 1,730千円

人 件 費 3,410千円 広 報 ・ 印 刷 費 3,896千円

サーバ等管理 1,156千円 その他活動費等 1,506千円

●入会およびインターネット会員登録について NUAL membership registration

名古屋大学全学同窓会への入会および同窓会名簿への登録についてご案内します。

You can register your membership and renew your data through the following web-page.

○新卒業生・修了生

会則に従い、自動的に名古屋大学全学同窓会の会員としてお名前、生年月日、卒業年が名簿に登録されます。

同窓会ホームページには、本人だけがアクセスできる現住所、電話、E-mail、勤務先等々の欄があり、ご自身での記載・変更をお願いします。

○未登録同窓生・元職員

在学・在職年度や部局・身分によっては現時点で名簿に登録されていない場合があります。ホームページを通して新規登録をお願いいたします。

名簿は社会貢献人材バンクとして全学同窓会及び名古屋大学の活動に利用しますが、個人情報本人の承諾なしに公表されることはありません。最新の会員情報が得られますよう、皆様のご協力をお願いいたします。

ホームページ <http://www.nual.nagoya-u.ac.jp/>

●最近、同窓会事務局に「名大ジャーナル」についてのお問い合わせが多く寄せられています。

「名大ジャーナル」は、大学の公認サークル・団体ではありません。また、同窓会とも何ら関係はありませんので、ご注意ください。

編集後記

最初の海外支部として韓国支部が設立され、今後、バングラデシュや中国で次々と海外支部が立ち上がっていきます。名古屋大学がもつ力が今全世界に向かって躍動し始めていることを感じました。また今回から始まりました特集名大今昔(第1回) 嚶鳴寮はいかがでしたでしょうか。各世代の同窓生の方々から生々しい体験談を綴っていただき、様々な世代の様子がよくわかりました。本誌が同窓会員の情報交換の場となればと思っています。

(全学同窓会広報委員会)

NUAL Newsletter No.5 平成 17 (2005) 年 10 月発行

Nagoya University Alumni Association

NUAL 名古屋大学全学同窓会

〒464-8601 名古屋市千種区不老町 TEL/FAX 052-783-1920

E-mail nual-jimu@post.jimu.nagoya-u.ac.jp

ホームページ <http://www.nual.nagoya-u.ac.jp/>

編集：名古屋大学全学同窓会広報委員会